



平成 20 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 雪 印 乳 業 株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 高野瀬 忠明
(コード番号 2262 東証 1 部、札証)
問 合 せ 先 広 報 室 長 小 西 寛 昭
(TEL 03-3226-2124)

中期経営計画の策定について

雪印乳業株式会社(以下、雪印乳業)は、下記のとおり、『2008～2010 年度 雪印グループ中期経営計画 ～新しい時代の「健土健民」～』を策定致しましたのでお知らせします。

記

雪印グループは平成 17 年 9 月に、「収益力強化」、「財務基盤の安定化」、「基幹システムの刷新」を基本方針とした中期経営計画を発表致しました。以降、様々な個別施策に注力し着実に成果を上げて参りました。

主な取組み成果は、「なかしべつ工場及び大樹工場の生産体制の増強」、「北海道産生乳を 100% 使用したチーズ『雪印北海道 100』シリーズの発売」、「雪印種苗株式会社の完全子会社化」、「優先株式の買入消却」などで、ほぼ計画どおりに進捗しており、平成 18 年度決算での復配も果たす事ができました。

しかしながら、当グループは、国際食糧需給の逼迫、国際乳製品相場の高騰、飼料価格の高騰など、乳資源をめぐる大きな環境変化や消費構造の変化など、未曾有の環境変化に直面しております。

この状況下、現行の中期経営計画を発展的に見直し、環境の激変に対応した新たな価値の創造を目指した事業展開を図るため、中期経営計画を一年前倒して終了し、『2008～2010 年度 雪印グループ中期経営計画 ～新しい時代の「健土健民」～』を策定致しました。

新中期経営計画では CSR 経営を実践するため「当社の果たすべき役割」として下欄のとおり方針を掲げ、激変する環境に対応する 6 つの強化取組みと 4 つの変革取組みから成る事業戦略を策定致しました。

[新中期経営計画の骨子]

1. 当社の果たすべき役割

～ 新しい時代の「健土健民」※の実践 ～

「雪印グループNEW（乳）FRONTIER」を目指す。

酪農生産への貢献と消費者重視の経営を実践することで、「豊かな国土」とお客様・消費者の「おいしい顔」を実現する。

NEW（乳）FRONTIER（未開拓、最先端の領域）

- ・ 新時代の酪農生産
- ・ 乳資源の新しい価値創出
- ・ 「乳」最先端技術の研究及び開発
- ・ 新たな事業領域への進出

※健土健民とは、創業者の一人黒澤西蔵が唱えた、雪印乳業の創業の精神を表現した言葉です。

酪農は土の力を豊かにし、その上に生きる生命を輝かせます。その結果つくられた乳製品は、人々の健やかな精神と身体を育みます。

2. 事業戦略

[6つの強化]

(事業基盤の強化)

- ・ 酪農生産との共存共栄
- ・ 研究開発力の強化
- ・ 海外メーカーとの連携強化
- ・ コスト構造強化

(コア事業の強化)

- ・ 国産ナチュラルチーズの強化
- ・ 国産乳製品の戦略的拡大

[4つの変革]

(乳資源価値の極大化)

- ・ 新たな生産体制の整備
- ・ 新たな技術展開による商品開発

(価値の創造)

- ・ 新たな事業領域への展開
- ・ グループ事業の新たな拡大

3. 経営目標数値 [2010年度（平成22年度）末において]

- ・ 連結売上高営業利益率 3.9%以上
- ・ 連結ROA（対経常利益） 6.3%以上
- ・ EBITDAマージン 6.7%以上
- ・ 連結配当性向 20%以上

4. 対象期間

平成20年度から平成22年度までの3ヵ年。

以上